

事業報告（平成7年度）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学芸術資料館 公開日: 2022-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/00000431

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0
International License.



事業報告（平成7年度）

I. 展示関係

A. 収蔵品展一覧

1. 芸術資料館陳列室

第1回 「春季展」

会 期 平成7年4月3日（月）～4月28日（金）

入場者 716人 20日間

第2回 「新収蔵品展」

会 期 平成7年5月26日（金）～6月23日（金）

入場者 1612人 29日間

第3回 「三輪晁勢絵画資料展」

会 期 平成7年9月12日（火）～10月1日（日）

入場者 1013人 20日間

第4回 「秋季展－模写作品」

会 期 平成7年10月31日（火）～11月19日（日）

入場者 2026人 20日間

第5回 「卒業作品－漆工」展

会 期 平成8年1月23日（火）～2月18日（日）

入場者 963人 27日間

◎総計 6330人（116日開室）

2. 京都市四条ギャラリー

京都市四条ギャラリー（下京区四条高倉東入）において、本館及び本学芸術教育振興協会が主催する収蔵品展を開催した。

「京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展

絵巻－土佐派絵画資料展」

会 期 平成7年10月1日（日）～10月29日（日）

入場者 1494人 25日間

B. 収蔵品展展示概要

第1回 「春季展」

会 期 平成7年4月3日(月)～4月28日(金)

入場者 716人 20日間

本展示は、本館所蔵品の絵画と工芸資料の中から、近年公開の機会を得ていないものを中心に構成した。収蔵品は、学生の卒業作品と、参考品と呼んでいる制作や研究活動の参考に供する資料・作品に大別される。卒業作品は明治27年以後のものが選択的に収蔵され、参考品は美術工芸学校・絵画専門学校時代に収集されたものが中核をなしているが、この展示で鑑賞・研究に活用してもらうことを意図した。また今回から、会場にアンケート用紙を置き、来館者の意見を聞き今後の運営の参考にすることとした。

展 示 作 品

〈絵 画〉

冷泉 為恭	「蘭陵王童舞図」	江戸時代(1850年代)
浅井 忠	「琵琶湖風景」	明治時代
鈴木 松年	「墨梅図」	明治16年(1883)
中島 有章	「遊鯉図」	明治21年(1888)
豊島 停雲	「名和長年」	明治35年(1902)
猪飼 嘯谷	「佐伎母里」	(大正時代 ㌾)
村山 槐多	「信州風景」	大正3年(1914)
西山 英雄	「磐梯」写生	昭和42年(1967)
今井 憲一	「市」エスキース	昭和24年(1949)
薬師曼荼羅図	朝鮮：李朝	嘉靖40年(1562)
武人と会見する貴婦人	インド	19世紀
山添 耕治	サンヴァール聖堂壁画模写(部分)	昭和46年(1971)
広江 霞舟 等	渡辺始興筆「四季草花図」模本	明治時代
井上 正晴	正倉院御物模写(2巻)	明治時代

〈工 芸〉

這子	元禄元年(1688)
天児	江戸時代
次郎左衛門頭五人立雛	明治時代
犬筥	江戸時代
左義長羽子板	江戸時代
源氏絵貝桶・合貝	江戸時代
ぶりぶり	明治時代

第2回 「新収蔵品展」

会 期 平成6年5月26日(金)～6月23日(金)

入場者 1612人 29日間

本展示では、平成6年度に寄贈または購入により新たに収蔵された収蔵品34件 226点のうち、卒業作品を除く参考品の一部を選び陳列した。当年度新収品の特徴としては、退職した本学教員から多くの寄贈作品があったことと、川北霞峰、三輪晃勢といった時代の異なる本学ゆかりの作家の下絵及び写生のコレクションが充実したことがある。また、今回の収蔵品展から、一般の来館者が気軽に利用できるように会期中は、土曜・日曜・祝日も平常どおり開室することになった。入室者数のうえでもその効果は現れていた。

展 示 作 品

三輪 晃勢作		〈寄贈〉三輪晃久氏
東山下絵	紙本著彩, 額, 1面, 大正12年(1923), 写生	
堂本 印象作		〈寄贈〉三輪晃久氏
裸婦素描	紙・チョーク, 額, 1面, 大正12年(1923), 写生	
裸婦素描	紙・チョーク, 額, 1面, 大正12年(1923), 写生	
中村 善種作		〈寄贈〉作者
余呉の釣人	麻布油彩, 額, 1面, 平成4年(1992)／第14回十果会展, 洋画	
渡辺 武蔵作		〈寄贈〉作者
芽ぐむ	紙本著彩, 額, 1面, 昭和49年(1974)／第6回改組日展, 日本画	
幻花	紙本著彩, 額, 1面, 平成5年(1993)／第25回日展, 日本画	
岩井 弘作		〈寄贈〉作者
大天使ミカエル像(トマッ・ダ・モナ作)	紙本著彩, 額, 1面, 昭和52年(1977), 絵画模写	
勢至菩薩像(法隆寺金堂壁画)	紙本著彩, 額, 1面, 昭和60年(1985), 絵画模写	
ザビエル像(神戸市立博物館蔵)	紙本著彩, 額, 1面, 平成2年(1990), 絵画模写	
西嶋 武司作		〈寄贈〉作者
晨	染色屏風(2曲1隻), 昭和50年(1975)／第7回日展, 染織	
燦	染色屏風(2曲1隻), 平成3年(1991)／第13回新工芸展, 染織	
平田 自一作		〈寄贈〉作者
平田自一デザイン資料(28点30面), 紙本著彩・ワット・写真・パネル, デザイン		
変身(ポスター原画)	1面, 昭和29年(1954)	
死者の奢り(ポスター原画)	1面, 昭和34年(1959)	
東洋ガスマージスター	1面, 昭和50年(1975)	
森本 岩雄作		〈寄贈〉作者
作品	土・ミクストメディア, パネル, 1面, 昭和36年(1961), 洋画	
JUL. 1990	麻布油彩, パネル, 1面, 平成2年(1990), 洋画	
山崎 脩作		〈寄贈〉作者
素材と形の問'81	鉄, 昭和56年(1981), 彫刻 (本学大学会館ロビー内に展示)	
川北 霞峰作		〈購入〉
川北霞峰絵画資料(96点), 明治20年代, 粉本		
草花画帖	紙本墨画, 1帖(粘蝶装)/14紙-表紙, 明治22(1889)	
人物画帖	紙本墨画淡彩, 1帖(粘蝶装)/20紙-表紙	
人物画帖	紙本墨画, 1帖(こより綴)/14紙-表紙2紙, 明治23(1890)	
芳文筆唐人図	紙本墨画淡彩, 裏打, 1枚, 明治23(1890)	
猿が島図	紙本淡彩, 裏打, 1枚	
唐美人図	紙本淡彩, 裏打, 1枚	
応挙筆鶏図	紙本淡彩, まくり, 1枚, 明治22(1889)	
草花雛屏風図	紙本淡彩, まくり, 1枚	
嵐山春景図	紙本淡彩, 裏打, 1枚, 明治24(1891)	
蜻蛉図	紙本淡彩, 裏打, 1枚	
高倉 観崖作		〈購入〉
芙蓉	紙本淡彩, 裏打, 1枚, 明治30年代, 写生	
徳岡 神泉作		〈購入〉
いたち(剥製)	紙本淡彩, 裏打, 1枚, 明治44年(1911), 写生	

第3回 「三輪晁勢絵画資料展」

会 期 平成7年9月12日(火)～10月1日(日)

入場者 1013人 20日間

本展示では、本学の前身である京都市立絵画専門学校を卒業し、京都を代表する日本画家のひとりとして、高い評価を受けた三輪晁勢の本画と写生を選んだ。晁勢は、学校卒業後堂本印象に師事し、帝展や文展、戦後の日展を中心に活躍、師の没後はその画塾「東丘社」を主宰して指導的な役割を果たした画家である。写生類は昨年寄贈されたもので、今回初めて展示される。

展 示 作 品

三輪晁勢(明治34～昭和58年)

〈本 画〉

葡萄	紙本著彩	屏風	大正13年(1924)	絵専卒業制作
有明	紙本著彩	額	昭和22年(1947)	第3回日展
仏法僧	紙本著彩	額	昭和45年(1970)	第2回改組日展
東山 下絵	紙本著彩	額	大正12年(1923)	(第8回帝展)
樹 下絵	紙本著彩	額	昭和40年(1965)	(第22回東丘社展)

〈写 生〉

波切写生	紙本著彩	卷子	大正9年(1920)	美工卒業制作
祖谷葛橋	紙本鉛筆淡彩	裏打	昭和7年(1932)	
ひよどり	紙本鉛筆淡彩	まくり	昭和2年(1927)	
ひよどり	紙本鉛筆淡彩	まくり	昭和2年(1927)	
あとり	紙本鉛筆淡彩	裏打	昭和6年(1931)	
とらつぐみ／花	紙本鉛筆淡彩	まくり		
鶴／狐	紙本鉛筆パステル	まくり	昭和14年(1939)	
狐	紙本鉛筆パステル	まくり	昭和14年(1939)	
川鶴	紙本鉛筆淡彩	まくり	昭和14年(1939)	
川鶴	紙本鉛筆淡彩	まくり	昭和14年(1939)	
雌鴨	紙本鉛筆淡彩	裏打	昭和3年(1928)	
玉しぎ	紙本著彩	裏打		
雌雉	紙本淡彩	裏打		
はまぐり	紙本淡彩	まくり	大正7年(1918)	
はまぐり	紙本著彩	裏打	昭和43年(1968)	
あじ・赤貝	紙本著彩	裏打	昭和5年(1930)	
胡瓜	紙本著彩	裏打	昭和3年(1928)	
うべ	紙本鉛筆著彩	裏打	昭和10年(1935)	
芙蓉	紙本鉛筆淡彩	裏打	昭和14年(1939)	
芙蓉	紙本鉛筆淡彩	裏打	昭和14年(1939)	
芙蓉	紙本鉛筆淡彩	裏打		
芙蓉(白)	紙本鉛筆淡彩	裏打		
綿花	紙本著彩	裏打		
綿花	紙本著彩	まくり		
泰山木	紙本著彩	裏打		
紅蜀葵	紙本著彩	裏打		
向日葵	紙本著彩	裏打		

第4回 「秋季展－模写作品」

会 期 平成7年10月31日（火）～11月19日（日）

入場者 2026人 20日間

本展示では、本学の模写資料の中から近代の画家がほぼ同時代に生きた画家の絵を模写した作品を選んだ。これらは、大半が本学の前身京都市立美術工芸学校時代に絵画教育の教材として制作されたもので、その緻密で的確な表現には見るものに模写ということを感じさせない迫力がある。また学校教員の作品模本の他、彼らが制作した運筆手本を複本化した模写用手本もあって、教育現場の模写に対する意識の高さをかいまみることができよう。さらに、東京美術学校の所蔵品を盛んに模写しているのも、東西の美術学校交流の有様をうかがわせて興味深い。

展 示 作 品

〈模写作品〉

名称／原本作者（所蔵者）	模写者	材質・形状	制作年
月夜山水／橋本雅邦（東京芸術大学芸術資料館蔵）	不詳	紙本淡彩	1幅
白雲紅樹／橋本雅邦（東京芸術大学芸術資料館蔵）	不詳	紙本墨画淡彩	1幅
江流百里／狩野芳崖（※トノ美術館蔵）	徳田隣斎	紙本墨画	1幅
牧 童／狩野芳崖（東京芸術大学芸術資料館蔵）	徳田隣斎	紙本淡彩	1幅
達 磨／狩野芳崖（東京芸術大学芸術資料館蔵）	徳田隣斎	紙本淡彩	1幅
山水図／狩野芳崖（東京芸術大学芸術資料館蔵）	不詳	紙本著彩	1幅
秋山帰樵図／狩野芳崖	徳田隣斎	紙本墨画	1幅
不動明王／狩野芳崖（東京芸術大学芸術資料館蔵）	二宮一鳩	紙本著彩	1幅
月下猫児／岸竹堂（個人蔵）	榊原紫峰	紙本淡彩	1幅
豹 図／岸竹堂	不詳	紙本著彩	1幅
桜 図／岸竹堂	入江波光	紙本淡彩	1幅 大正6年（1917）
虎 図／岸竹堂	不詳	紙本著彩	1幅
富士川大勝／竹内栖鳳（東京国立博物館蔵）	徳田隣斎	紙本著彩	1幅
乱 松／竹内栖鳳	徳田隣斎	紙本墨画淡彩	1幅
港頭春色／竹内栖鳳	徳田隣斎	紙本墨画淡彩	1幅
皐月雨／竹内栖鳳（藤田美術館蔵）	徳田隣斎	紙本墨画淡彩	1幅
獅 子／竹内栖鳳	徳田隣斎	紙本著彩	1幅
盛夏午後／竹内栖鳳	徳田隣斎	紙本著彩	1幅
花の山／竹内栖鳳（個人蔵）	徳田隣斎	紙本著彩	1幅
悲 秋／竹内栖鳳	徳田隣斎	紙本墨画淡彩	1幅
虎／竹内栖鳳	西山翠嶂	紙本著彩	1幅
紫藤図／菊池芳文（本館蔵）	二宮一鳩	紙本墨画淡彩	1幅 大正10年（1921）
白藤図／菊池芳文（本館蔵）	二宮一鳩	紙本墨画淡彩	1幅 大正10年（1921）
鴛鴦図／菊池芳文（本館蔵）	山内信一	紙本淡彩	1巻 明治40年（1907）
雉子図／菊池芳文（本館蔵）	山内信一	紙本淡彩	1幅 明治40年（1907）

〈参考作品〉

鴛鴦図〈絵手本画原本〉	菊池芳文	絹本著彩	1巻
雉子図〈絵手本画原本〉	菊池芳文	絹本著彩	1巻

第5回 「卒業作品－漆工」

会 期 平成8年1月23日（火）～2月18日（日）

入場者 963人

27日間

本展示では、本館収蔵品の中から美術大学以後の漆工卒業作品を選んだ。先年行った陶磁器卒業作品展に引続き、戦後の卒業作品群を紹介するために企画したものである。本学の漆工教育の歴史は古く、前身である京都市美術工芸学校において明治28年に始った。当初は漆工科髹漆部と漆工科蒔絵部が設置され、その後描金科、漆工科、塗装科などの名称で継続した。しかし、永らく卒業作品が学校に遺されない時代が続き、ようやく戦後に美術大学となって、その学習の成果が遺されるようになった。従って、保管される作品数は決して多くないが、卒業生達の創作意欲は充分感じ取れる。ただ、会場の都合で漆工卒業作品の内わずか2点だけが割愛される結果となったことが残念であった。

展 示 作 品

藤崎 誠	飾棚	昭和31年(1956)美大工芸科塗装専攻
内藤 拓男	漆パネル	昭和32年(1957)美大工芸科塗装専攻
宇野 文夫	角屏風	昭和35年(1960)美大工芸科塗装専攻
山口 秀明	飾棚	昭和37年(1962)美大工芸科塗装専攻
西村 千鶴	屏風“紫陽花”	昭和41年(1966)美大工芸科塗装専攻
岡崎 秀樹	黒漆花器	昭和45年(1970)芸大美術学部工芸科塗装専攻
小倉 博	食箆	昭和46年(1971)芸大美術学部美術専攻科塗装専攻
青山 俊夫	研出蒔絵短冊筥	昭和49年(1974)芸大美術学部工芸科塗装専攻
加藤 幾子	乾漆“やまなみ研出蒔絵箱”	昭和50年(1975)芸大美術学部美術専攻科塗装専攻
後藤 健吉	黒漆絵飾筥	昭和51年(1976)芸大美術学部工芸科塗装専攻
林 久美	蒔絵酒器	昭和53年(1978)芸大美術学部工芸科塗装専攻
藤沢 一郎	光と影のなかで	昭和56年(1981)芸大美術学部工芸科塗装専攻
高桑 秀美	彫漆風呂先屏風“湍瀬”	昭和57年(1982)芸大美術学部工芸科塗装専攻
玉腰 久美子	乾漆筥“蝶々”	昭和57年(1982)芸大美術学部工芸科塗装専攻
川真田 聡子	漆板“ここのつの円”	昭和59年(1984)芸大美術学部工芸科漆工専攻
谷山 典子	心象かいわい	昭和59年(1984)芸大大学院美術研究科工芸専攻
原 靖子	乾漆盛器“SUZURAN”	昭和62年(1987)芸大美術学部工芸科漆工専攻
村上 千穂	宵蒔絵乾漆菓子器	昭和63年(1988)芸大美術学部工芸科漆工専攻
村上 千穂	雫蒔絵乾漆箱	平成2年(1990)芸大大学院美術研究科工芸専攻
安井 友幸	家族	平成3年(1991)芸大美術学部工芸科漆工専攻
北原 美保	蒔絵硯箱“耀”	平成4年(1992)芸大美術学部工芸科漆工専攻
春名 淳一	芳生	平成5年(1993)芸大大学院美術研究科工芸専攻
松井 尚美	乾漆“風の便り”	平成6年(1994)芸大美術学部工芸科漆工専攻
川端 圭介	死に行く	平成7年(1995)芸大美術学部工芸科漆工専攻

〈会場の都合により展示できなかった作品は次の2点です。〉

小枝 しのぶ	テーブル	昭和56年(1981)芸大美術学部工芸科塗装専攻
栗本 夏樹	儀式（天にむけて）	昭和60年(1985)芸大美術学部工芸科漆工専攻

C. 京都市四条ギャラリー展示

「京都市立芸術大学芸術資料館収蔵品展」

絵巻－土佐派絵画資料展」

会 期 平成7年10月1日（日）～10月29日（日）

会 場 京都市四条ギャラリー（下京区四条高倉東入）

入場者 1494人

25日間

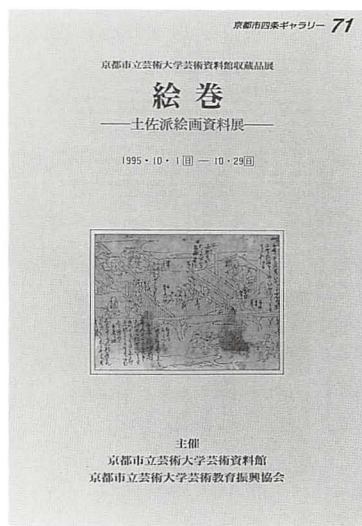
京都市四条ギャラリーにおいて本館収蔵品展を行った。主催は本館及び本学芸術教育振興協会である。また展示にちなみ、本館編・同振興協会発行の図録「土佐派絵画資料目録（六）絵巻粉本（二）」が発行された。目録の編集は本学教授でもある榊原吉郎館長と本館学芸員で行い48点の資料を掲載している。本展示の内容構成はこの目録編集作業から導かれたものである。

展示内容は本館の所蔵する土佐派絵画資料の中から平家物語絵巻や文正草紙・遊行上人縁起絵といった物語絵巻・縁起絵巻・高僧伝絵巻の模写・下絵類30点を展示した。昨年本館陳列室で公開した資料の一部を今回も展示したが、大部分はこれまで一般に公開されていない資料だけに、会期中は美術愛好家ばかりでなく、美術の専門家の来場も少なくなかった。

展覧会用に、ポスター（B3、2色刷）・はがき（2色刷）・パンフレット（B5判、4ページ）が印刷された。



ポスター



パンフレット



はがき

ごあいさつ

京都市立芸術大学は、内外に広く開かれた大学をめざして、美術・音楽にわたり幅広く持続的な活動を続けておりますが、芸術資料館が所蔵する土佐派絵画資料の一般公開もその重要な事業のひとつです。土佐派絵画資料というのは、室町時代から明治期に至るまで活動を続けた大和絵の画系、土佐家累代に残し伝えられた下絵や模本などの粉本類をいいます。芸術資料館が、それまで少しずつ進めていた研究調査を本格的に始め、本学の芸術教育振興協会との共催により一般公開に踏み切ったのは、平成2年の「土佐派肖像粉本―将軍・茶匠・町衆」からでした。以来、柿本人麿を中心にした「歌神・歌聖」、「御所の障壁画」、「鳳凰堂板絵・道釈画」、「四季と歌の絵巻」と続き、それらの新資料の初公開は、その都度好評を重ねてまいりました。

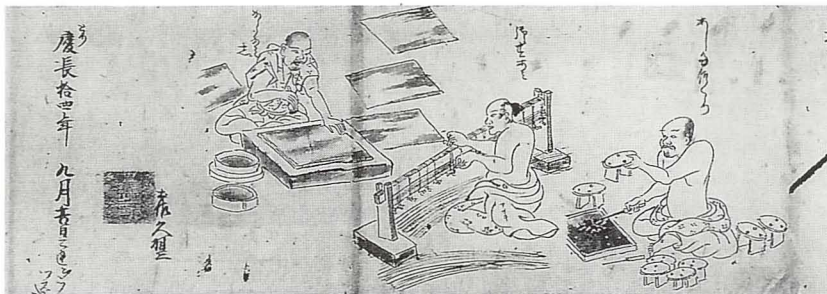
今回は、昨年に引き続き「絵巻」の二回目となります。昨年は、学内での例外的な展観でしたので、その時に展示した職人歌合や歌絵もここに改めて紹介しております。それ以外の物語絵や縁起絵の多くは、やはり初めて公開されるものです。

また芸術資料館では、それらを類別的に包括した土佐派絵画資料目録を、同じく芸術教育振興協会の協力を得て順次刊行しており、現在は第5巻を数えるまでになりました。こうした研究調査目録の刊行によって、関係する各分野の研究にささやかにも貢献できていますことは、望外の慶びとするものです。

本展の開催にあたり、関係各位の多大なるご協力に深く感謝するとともに厚く御礼申し上げます。

平成7年10月

京都市立芸術大学芸術資料館
京都市立芸術大学芸術教育振興協会



「7 七十一番職人歌合（土佐光吉）」部分

出品目録

目 録	品 名 (作者)	材 質	年 紀	法量 (mm)
絵巻(一)	1 都名所絵巻	紙本淡彩		332×9522
絵巻(一)	2 名所歌絵巻	紙本墨画	寛文 2 年 (1662)	252×6330
絵巻(一)	3 四季風俗絵巻	紙本墨画		335×3200
絵巻(一)	4 釈奠絵巻〈紙背に尚雨会図〉	紙本墨画		350×4090
絵巻(一)	5 四季花鳥絵巻 (土佐光芳)	紙本墨画	宝暦 2 年 (1752)	142×2020
絵巻(一)	6 四季花鳥絵巻 (土佐光淳)	紙本墨画	宝暦 2 年 (1752)	138×1411
絵巻(一)	7 七十一番職人歌合 (土佐光吉)	紙本墨画	慶長14年 (1609)	262×7917
絵巻(一)	8 東北院職人歌合	紙本着彩		265×12212
絵巻(二)	9 若宮八幡宮縁起	紙本墨画		400×950
絵巻(二)	10 三韓退治物語絵巻	紙本墨画		290×5390
絵巻(二)	11 箱根山権現社絵巻	紙本墨画	享保 8 年 (1723)	335×5180
絵巻(二)	12 北野天神縁起絵巻	紙本墨画	元禄11年 (1698)	315×2280
絵巻(二)	13 天神縁起絵巻 (土佐光成)	紙本墨画		390×508
絵巻(二)	14 弘法大師行状画図	紙本墨画	元禄15年 (1702)	265×230
絵巻(二)	15 西行絵巻	紙本墨画		140×7520
絵巻(二)	16 明恵上人絵伝	紙本淡彩		180×2985
絵巻(二)	17 遊行上人縁起絵	紙本墨画	延宝 5 年 (1677)	283×1495
絵巻(二)	18 遊行上人縁起絵	紙本墨画		280×4256
絵巻(二)	19 絵巻断簡	紙本墨画部分著彩	延宝 7 年 (1679)	280×3140
絵巻(二)	20 源氏物語絵	紙本墨画	享保 2 年 (1717)	285×2626
絵巻(二)	21 竹取物語絵巻	紙本墨画		305×4310
絵巻(二)	22 狭衣物語絵巻	紙本墨画		320×10240
絵巻(二)	23 栄華物語絵巻 (土佐光芳)	紙本墨画	寛延 3 年 (1750)	285×3340
絵巻(二)	24 栄華物語絵巻	紙本墨画		280×1260
絵巻(二)	25 栄華物語絵巻	紙本墨画		120×1365
絵巻(二)	26 物語絵巻	紙本墨画		170×7276
絵巻(二)	27 絵師草紙	紙本淡彩		365×7720
絵巻(二)	28 福富草紙	紙本淡彩	元禄 9 年 (1696)	240×1980
絵巻(二)	29 平家物語絵巻	紙本墨画一部朱線		260×12230
絵巻(二)	30 文正草子絵巻	紙本墨画	寛永14年 (1637)	262×10640

*「目録」は資料の収録される目録名を示す。それぞれ、『土佐派絵画資料目録 (五) 絵巻 (一)』(既刊)、『土佐派絵画資料目録 (六) 絵巻 (二)』(来春刊行)を示す。

*表紙図版は「29 平家物語絵巻」部分。

本学所蔵の土佐派の絵画資料には断簡を含め、十数種類の絵巻の粉本が現存している。の中には大和絵の伝統的な主題である四季絵、四季花鳥絵巻、月次絵、東北院職人歌合、七十一番職人歌合、鶴ヶ岡放生会職人歌合、三十六歌仙絵巻、名所歌絵巻、吉野歌絵巻、都名所絵巻など和歌と関連した絵巻がある。

名所の和歌を理解し、それを絵画化する名所絵巻には実景としての名所ではなく、あくまでも歌に読み込まれた名所であり、文学上の風景が描き出される。つまり、記号として成立した風景であるといえよう。定型化された風景であり、三次元的な絵画空間を識別できる描写を、そこに求めることは出来ない。約束事が成立しているのである。

さらに、「道々のもの」である職人たちに「月」と「恋」に関する歌合せをさせることが鎌倉時代に始まり、その様子を描き出した幾種類かの「職人歌合絵巻」が残されている。職人を左右に分けて、歌を競わせ、経師が判定する競技ともいえる行事を描き出したものである。

芸大本の『東北院職人歌合』は、曼殊院本を底本とする〔五番本〕の模写粉本であり、さらに〔十二番本〕の模写粉本である。登場する人物は、〔五番本〕と称されるものには十人の職人と判定者の経師をいれた十一人の人物が表現され、〔十二番本〕には判者を除く二十四名の職人たちである。『東北院職人歌合』以外にも、芸大本には『鶴ヶ岡放生会職人歌合』、『七十一番職人歌合』の模写粉本が残されている。

ここで職人という言葉について考えておかねばならない。今日で概念で、この「職人歌合」に登場する人々を捉えようと、おおきな違和感が生じる。すなわち、「医師」、「陰陽師」、「博打」などが描き出されており、これらの人々をばたして職人という

言葉で表現することは出来るであろうか。

「職人」という言葉が最初に見出されるのは一五世紀の長祿二年の『大乘院寺社雑事記』の記録で、それ以前は「諸工人」と表現されていたようである。

この歌を実際に作った人物は、職人たちではない。むしろ、上層貴族たちであり、職人たちになり代り、庶民の生活を類推しながら詠んだものとされている。

職人の数が増える「七十一番職人歌合」には、土佐光吉の手になる絵巻粉本があるが、そこでは歌は記録されことも少なく、むしろ職人の姿を生き生きとした筆使いで描き出している。光吉自身も写し取ることを楽しんでいるようにも見られる。描き出された人物は墨線を主とし、淡墨をく加えた姿である。

「四季花鳥絵巻」二巻は、可愛らしい巻き物である。その内一巻は、土佐光芳が宝暦二年(1752)の正月に仕上げた絵巻物の控と考えられる。江戸へ勅使として下向された伏見兵部卿貞建親王の京みやげと推定される絵巻物の写しである。すなわち、紙背文書に「宝暦二壬申正月七日出来 伏見様御用江戸へ行く 御巻物 長壺丈三尺 天地壺尺五分」と墨書されている。この歳の勅使が伊東修理大夫祐隆と西園寺前左大臣致季卿および花山院前右大臣常雅卿の三人と伏見兵部卿の四名であり、この「伏見様」とは貞建親王のことと考えられるからである。

今一つの「四季花鳥絵巻」は、前者の写しである。この両者の模写者は土佐光淳と考えられる。

(京都市立芸術大学教授)

●ギャラリー講座

□10月19日(木)

「土佐派と絵巻」

榊原吉郎 (京都市立芸術大学教授)

●午後5時30分会場でおこないます。

次回予告

京都市四条ギャラリー 72

「現代テキスタイルの諸相」展

Contemporary Direction in Japanese Textile

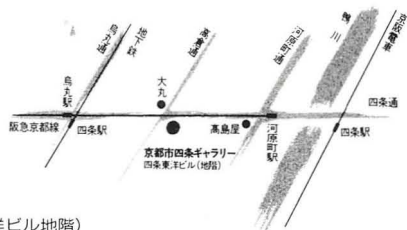
1995年11月3日(金)～27日(月)

京都市四条ギャラリー

京都市下京区四条高倉東入 (四条東洋ビル地階)

TEL (075) 223-1851 〒600

●開所時間：午前10時～午後7時 ●休所日：水曜日、年末・年始



Ⅱ. 教育普及関係

A. 収蔵品貸出状況

本学外に貸し出された収蔵品は下記のとおりである。

平成7年度総計 19件 236点

作品名	貸出先	展覧会名	会期
土佐派絵画資料「足利義晴像」「足利義輝像」「三好義継像」	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	朝倉氏と織田信長	95. 7. 20～8. 27
須田国太郎「走鳥」	尾道市立美術館	小林和作と美の交遊 －梅原龍三郎から須田国太郎まで－	95. 10. 8～11. 26
土佐派絵画資料「清涼殿名所図」「飛香舎名所図」	和泉市久保惣記念美術館	歌絵	95. 10. 1～11. 26
小野竹喬「南国」	山種美術館	小野竹喬－その人と芸術	95. 9. 30～11. 26
土佐派絵画資料「嵯峨小鷹狩図」 田中親美「年中行事絵巻模本」	斉宮歴史博物館	狩と王権	95. 10. 10～11. 23
土佐派絵画資料「足利義晴像」2点	滋賀県立安土城考古博物館	観音寺城と佐々木六角氏	95. 10. 14～11. 12
富本憲吉「色絵金銀彩羊歯模様蓋付師壺」	朝日新聞社文化企画局	富本憲吉－その人・こころ－	95. 9. 20～11. 14
小野竹喬「南国」 土田麦僊「髪」	国際交流基金	近代日本画の一世紀1868-1968	95. 11. 2～12. 31
入江波光「春雨」 村上華岳「熊」 榊原紫峰「軍鶏」	桑名市博物館	近代日本画展 －京都画壇を中心に－	95. 10. 6～11. 12
田中親美「年中行事絵巻模本」	四日市市立博物館	祭礼・風流・山車－近世都市祭礼の文化史	95. 10. 28～12. 3
入江波光「北野の裏の梅」	三重県立美術館	1910年代の日本美術展	95. 10. 28～12. 3
藤本能道「日触」	兵庫県立近代美術館	津高和一とゲンビの作家たち	95. 12. 9～96. 1. 21
平田自一「精神保険総合センターモザイク壁画写真」2点	杜 婉清	杜婉清デザイン展	95. 11. 1～11. 5
加賀山白涯「秋霽」 岡文濤「暗中出手」 立脇泰山「黄昏」 宮崎拔天「狐」 榊原紫峰「軍鶏」 土田麦僊「髪」 小野竹喬「風景」 村上華岳「二月の頃」 入江波光「北野の裏の梅」	林司馬「花鳥図」 田之口青晃「西瓜畑」 曲子光男「深秋」 川村曼舟「老龍瑞光」 西山翠嶂「竹」 川北霞峰「紅梅」 西山英雄「廃船」 並木光昭「早梅」 古田和夫「スケート」		

星野空外 「淀川」
 松宮芳年 「堺の相生橋」
 不動立山 「美人（冬の夜更）」
 有山白崖 「日傘」
 大西莊観 「外出前」
 福田平八郎 「雨後」
 案本一洋 「今年竹」
 徳岡神泉 「晩秋」
 板倉星光 「はなび線香」
 玉城末一 「幽遠」
 稲垣仲静 「豹」
 吉川観方 「入相告ぐる頃」
 岡本神草 「口紅」
 木村斯光 「もだえ」
 佐藤光華 「三五夜中」
 中村大三 「花を持てる聖者」
 川村曼舟 「蟹邸暮靄」
 堂本印象 「世相三題（三幅）」

新潟日報社

日ノ下淳市 「坂」
 濱田観 「芥子」
 猪原大華 「池」
 麻田辨自 「唐崎一之松」
 宇田荻邨 「野々宮」
 池田遙邨 「灯台」
 山口華楊 「樹」
 秋野不矩 「雨季」
 奥村厚一 「淵」
 三輪晃勢 「仏法僧」
 上村松篁 「立葵」
 上原卓 「竹の径」
 石本正 「二人の裸婦」
 大野俣嵩 「彼岸花蕾」
 山本倉丘 「静晨」
 山元春挙 「絵手本 松茸」
 竹内栖鳳 「絵手本 牛」
 菊池芳文 「絵手本 藤」

96. 1. 3~1.15

京都の日本画—伝統と創世の系譜

不染鉄二 「冬」 奈良県立美術館

純情の画家 不染鉄 96. 4. 27~5. 26

村上華岳 「二月の頃」 京都新聞社
 入江波光 「北野の裏の梅」
 宇田荻邨 「野々宮」
 山口華楊 「樹」

近代名画に描かれた
 京洛の四季展 95. 8. 29~96. 1. 26

加賀山白涯 「秋霽」
 岡文濤 「暗中出手」
 立脇泰山 「黄昏」
 宮崎拔天 「狐」
 榊原紫峰 「軍鶏」
 土田麦僊 「髪」
 小野竹喬 「風景」
 村上華岳 「二月の頃」
 入江波光 「北野の裏の梅」
 星野空外 「淀川」
 松宮芳年 「堺の相生橋」
 不動立山 「美人（冬の夜更）」
 有山白崖 「日傘」
 大西莊観 「外出前」
 福田平八郎 「雨後」
 案本一洋 「今年竹」
 徳岡神泉 「晩秋」
 板倉星光 「はなび線香」
 玉城末一 「幽遠」
 稲垣仲静 「豹」
 吉川観方 「入相告ぐる頃」
 岡本神草 「口紅」
 木村斯光 「もだえ」
 佐藤光華 「三五夜中」
 中村大三 「花を持てる聖者」
 川村曼舟 「蟹邸暮靄」
 堂本印象 「世相三題（三幅）」

愛媛県立美術館

林司馬 「花鳥図」
 田之口青晃 「西瓜畑」
 曲子光男 「深秋」
 川村曼舟 「老龍瑞光」
 西山翠嶂 「竹」
 川北霞峰 「紅梅」
 西山英雄 「廢船」
 並木光昭 「早梅」
 古田和夫 「スケート」
 日ノ下淳市 「坂」
 濱田観 「芥子」
 猪原大華 「池」
 麻田辨自 「唐崎一之松」
 宇田荻邨 「野々宮」
 池田遙邨 「灯台」
 山口華楊 「樹」
 秋野不矩 「雨季」
 奥村厚一 「淵」
 三輪晃勢 「仏法僧」
 上村松篁 「立葵」
 上原卓 「竹の径」
 石本正 「二人の裸婦」
 大野俣嵩 「彼岸花蕾」
 山本倉丘 「静晨」
 山元春挙 「絵手本 松茸」
 竹内栖鳳 「絵手本 牛」
 菊池芳文 「絵手本 藤」

96. 6. 15~7. 14

京都の日本画—伝統と創世の系譜

同上

弘前市立博物館

96. 9. 7~9. 29
 京都の日本画—伝統と創世の系譜

同上 尾道市立美術館 京都の日本画－伝統と創世の系譜 96. 3. 30～5. 6

同上 秋田県立近代美術館 京都の日本画－伝統と創世の系譜 96. 5. 10～6. 9

*員数なきものは全て1点

B. 収蔵品学内使用状況

I. 本学内に於いて館外使用した収蔵品は下記のとおりである。

総計 4件 144点

資料名		目的	貸出先	使用場所
信貴山縁起絵巻模本	3巻	模写	日本画研究室	模写室
百鬼夜行図模本	1巻	模写	日本画研究室	模写室
北野天神縁起絵巻模本	2巻	模写	日本画研究室	模写室
中東諸国・インド写真	138枚	展示	中井貞次	大学会館クリエイティブホール

C. 収蔵品補修状況

今年度補修修理を行った収蔵品は下記のとおりである。

総計 16件 53点

名称	点数	類別	補修内容
粟田口耳付花瓶	1個	参考品	修理
色絵菊唐草高杯	1個	参考品	修理
加彩騎馬人物俑	1個	参考品	修理
紅陶加彩馬俑	1個	参考品	修理
堂本印象「裸婦図」	2面	参考品	額装
川北霞峰「芙蓉図」	1枚	参考品	額装
徳岡神泉「鳩写生」	1枚	参考品	裏打
徳岡神泉「鷗写生」	1枚	参考品	裏打
徳岡神泉「牡丹写生」	1巻	参考品	卷子装
徳岡神泉「自画像」	1面	参考品	額装
山元春举「松蓴図」	1幅	参考品	改装(額)
土佐派絵画資料絵巻粉本	9巻	参考品	卷子装
三輪晁勢「波切図」	1巻	参考品	卷子装
三輪晁勢「東山図画稿」	1面	参考品	額装
三輪晁勢「樹図画稿」	1面	参考品	額装
三輪晁勢下絵	29枚	参考品	裏打

D. 収蔵品撮影掲載状況

本館収蔵品撮影掲載許可は下記のとおりである。

総計 23件 80点

作品名	掲載者	掲載書紙名	発行月
上村松篁「立葵」	ビジョン企画出版社	『ポストカードブック』	1995. 6
丸山石根「村」	京都書院	『丸山石根画集風雅豊穰』	1995. 6
宇田荻邨「野々宮」 岡本神泉「口紅」 村上華岳「二月の頃」 山口華楊「樹」 入江波光「北野の裏の梅」	京都新聞社	『京の四季・近代名画 100選』	1995. 10
八木一夫「壁体」 御菩薩焼「銕絵染付薄文鉢」	Richard Wilson	『Inside Japanese Ceramics』	1995. 10
土佐派絵画資料のうち 「源氏物語図屏風模本」	宮島新一	『国華』	1995. 8
土佐派絵画資料のうち 土佐光茂「足利義晴像」(No. 19) 滋賀県立安土城考古博物館 土佐光茂「足利義晴像」(No. 20)		『常設展示用複製品』	1995. 7
土佐派絵画資料のうち 土佐光芳「千利休像」	淡交社	『チャート茶道史』	1995. 8
「田植蒔絵香盆」	花林舎	『続・日本の意匠』	1995. 8
三浦景生「蓮文」	求龍堂	『三浦景生作品集』	1995. 8
模本「末吉船絵馬」	New York University Press	『Art of the Seven Seas 』	1995. 8
六代清水六兵衛 「向日葵花瓶」	河原書店	『茶道雑誌』	1995. 10
村上華岳「二月の頃」	藝術出版社	『ARTS JAPONAI』	1995. 12
模写「唐画帖」	西山健史	嵯峨美術短期大学『紀要』	1996. 3
田村宗立旧蔵粉本のうち 「改八幡宮の画像」	洋泉社	『異端の教団』	1995. 12
模本「年中行事絵巻」のうち 「祇園御霊会」 「稲荷祭」	京都市文化観光資源保護財団	京の歳時記展写真パネル	1996. 2
麻田辨自「唐崎一之松」 入江波光「北野の裏の梅」 稲垣仲静「豹」			

猪原大華「池」 上村松篁「立葵」 宇田荻邨「野々宮」 小野竹喬「南国」 岡本神草「口紅」 土田麦僊「髪」 徳岡神泉「晩秋」 濱田観「芥子」 三輪晁勢「仏法僧」 村上華岳「二月の頃」 山口華楊「樹」 竹内栖鳳「絵手本・牛」	カツノアート プロダクツ	『京都の日本画－伝統と 創世の系譜』展絵葉書	1996. 1
加藤子清彦「重盛捕蛇の図」 沢田誠一郎「友禅図案」 中村吉蔵「壁掛図案」 高橋昇太郎「芍薬模様衝立図案」 樋口恒好「段通図案」 山田恭三「謡曲十二ヶ月応用裾模様図案」 福永俊吉「裾模様図案」 松尾存「三枚襲裾模様図案」 小林利一郎「金属衝立図案」 竹岡義雄「ポスター図案・オリンピック六題」 有元義郎「染物壁掛図案・躍進日本」	藤本恵子	京都文化博物館研究紀要『朱雀』	1996. 3
模本「伴大納言絵巻のうち応天門炎上」 「平治物語絵巻のうち三条殿焼討ち」 「鳥獣戯画のうち長櫃」 「阿弥陀聖衆來迎図」	日立製作所	『インターネット・日本の美』	1996. 2
麻田辨自「馬」 入江波光「北野の裏の梅」 稲垣仲静「豹」・「霰日」 猪原大華「池」 井上永悠「綿羊」 岡本神草「口紅」 要樹平「兵衛付近」 澤田石民「風景」 新見虚舟「市の日」 高山三路「風景」 玉城末一「幽遠」 土田麦僊「髪」 徳力富吉郎「牛」 林司馬「山茶花」・「花鳥図」（軸）・「花鳥図」（屏風） 丸岡比呂志「路次の細道」 村上華岳「二月の頃」 森谷南人子「麗艶」 山下摩起「ユウカリノ図」 山脇抱玄「聴雨」	光村推古書院	『国画創作協会の全貌』	1996. 6
土佐派絵画資料のうち 「箱根権現社絵巻」	森口隆次	大阪市立博物館『研究紀要』	1996. 3
土佐派絵画資料のうち 「柿本人麿像」(No. 388-8) 「柿本人麿像」(No. 388-21)	下原美保	『磯先生退官記念論文集』	1996. 5
古清水「色絵七宝透手焙」	平凡社	『別冊太陽』	1996. 6

土佐派絵画資料のうち

「鼓打ち像」

「三好実休（義賢）像」

吉川弘文館

『肖像画の視線』

1996. 6.

注・掲載を要しない研究のための撮影や手続きをしても使用しなかった掲載許可などについては、割愛している。

E. 博物館学実習受入状況

本学博物館学課程の博物館学実習について本施設では下記の者を受入れた。

辻 千里	坂野 徹	田邊 敬子	石塚 利栄	高木 薫
中野 栄子	松田 海知	村上 淳子	森本 恭子	米正 万也
大塚 麻美	川田 華菜	原田佳代子	近藤佳寿子	大吉真由美
永井孔美子	宮城 理恵	海東 広美	吉原嘉奈子	花村 統由
増田 斎				

以上21名

F. 特別閲覧許可状況

本館収蔵品の特別閲覧状況は下記の通り。

学内関係者	5 件
学外特志者	2 件
総計	7 件